

研修先	フェミニスト議員連盟 2019 サマーセミナー
日 時	2019年 7月6日 13時半 ～ 7月7日 12時30分
場 所	熊本県民交流館パレア9F 会議室
テーマ	想像してみよう 女性50%の政治がつくる社会を
対応者 (講師)	フェミニスト議員連盟 2019 サマーセミナー実行委員会
概 要	
<p><6日>子どもの声の代弁者は誰？</p> <p>1. 「特別支援教育コーディネータとして子どもたちと向き合った実践の日々を通して</p> <p>講師：南都芳子（元「みんなの学校（大空小学校）」にて特別支援教育コーディネーター）</p> <p>1 大空小学校では、お互いに知り合うを基本に、 ①まず会ったら自己紹介、②コの字型教室で子ども同士の顔が見える、③大人は誰でも子どもをサポートする人としての役割、としている。専門の人がいなかったことがよかったかも。</p> <p>2 「みんなの学校」のセイシロー君の前の学校は牢屋みたいだった（特別支援学級で1：1など）</p> <p>3 特別支援教育コーディネーターは「みんなの先生」。子どもと子ども、学校、地域、先生・・・をつなぐこと。</p> <p>4 学校脱走計画を立ててると、「そんなのいかんやろう」ではなく「すごいやん」「上手だね」「地図描ける」と。「どうして子どもが脱走をするか考えてみよう」</p> <p>5 子どもが困っていることに、アンテナをたてて。職員室を楽しく。子どもが駆け込めるように。こどもと一緒に遊ぶ。子どもができる事や、何が困っているか見えてくる。</p> <p>2. 熊本市における支援体制について</p> <p>1 講師：中村恭子氏（熊本市子ども発達センター所長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H20年4月「子ども発達相談室」として開設。地域に根差したネットワーク型。 ・各保育所の園長や主任を「発達障がいコーディネーター」に養成している。毎年2日間の研修は、発達障がいとは、対応方法など。 ・利用方法は、予約し初回来所で、心理評価、保護者からの聞き取り、制度面の案内。 ・専門医の相談まで2か月くらいかかる ・学童保育所内にもコーディネーターが必要 <p>2 講師：熊本市教育委員会 特別支援課西氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級教室の設置。5地区21校を拠点に巡回相談。 ・特別支援学校 高等部（平成さくら）開設（カフェさくらで菓子作り、レジ、接客など職業訓練 ・研修会、校内研修会を多く開催 	



3. 向精神薬服用体験者によるパフォーマンス

- ・産後うつから、4年間服用し震えなど様々な症状
- ・発達障がいのある子どもに向精神薬が認可され広がっている
ストラテラ：6歳未満の安全性は確立されていない
コンサータ：副作用86%

4. 信愛女学院高校生よりガールズサミットの呼びかけ

画像（略）

5 パネリストとの意見交換

- ・障がいは社会が規定。ある離島ではみんなが手話を学んでいるので、ろうあ者がいない
- ・障がいのある子もない子もいろんな特性のある子が一緒に育っている。
- ・子どもが中心で、先生たちが仲が良い。子どもたちのできることに目を向ける

<7日>候補者男女均等法を徹底活用！

1. 熊本市における男女共同参画の取り組み（熊本市男女共同参画課 東原氏）

S62年 婦人生活課 設置

2006年 世界女性スポーツ会議くまもと 開催

H28年 熊本地震：避難所キャラバン、女性職員50の証言（子ども・高齢家族）

H31年4月 熊本市パートナーシップ宣誓制度（今24番目）

第3次基本計画：多様性の尊重 重点（ダブルケア、ダイバシティ、デートDV）

LGBTについて九州初の職員向け資料、職員募集、選挙入場券など性別欄のなしに

2019年1月 「働く女性の交流会 IN くまもと」開催

2. 学生によるプレゼンテーション「政治分野における男女共同参画推進法」

県立大4年宮井さん

2019年の統一地方選で女性議員は、1239人に（+136人）。18%

世界で165位。」ルワンダ61.3%、フランス40%

3. 統一地方選挙を振り返って・女性議員を増やす環境整備とは

1 勝俣さん（岩国市在住）、南さつま市議平神さん

・勝俣：東串良町に15日間入る。ひとりだから全部わかる

・2月女性ゼロ議会垂水市にて「女性が議会に入るとどう変わる？」開催

・垂水市で高橋りえこさん、池田みすずさん立候補。初の女性議員池田さん誕生

・東串良町で初の女性議員小川かおりさん（シングルマザー）を誕生させる

画像（略）

- ・立候補を勧め 10 人くらいに会う。自分で決意することが大事
- 2 緒方ゆうか熊本市議
- ・議会の校正が偏っている。女性が少ない、子育て中が少ない
 - ・様々な子育てを諦めなくてよい環境が必要
 - ・議場に子どもを連れて行くのは違法ではないー想定されていない
 - ・茅ヶ崎市：首から下が動かない男性。委員会視察介助者 2 名の交通費。個人の時は政務費を使う。習って視察や議場内も含めてベビーシッターの同伴が認められるべき
- 3 天草市の場合：人口 8 万。26 年 1 名落選、29 年立候補なし
- ・ステップアップセミナーの開催：議員など活躍をめざす
 - ・市長と語ろう、傍聴へ行こう（託児付き・20 人参加）
 - ・アンケート：自分たちの暮らしのことが決まっている
 - ・37 人が人材バンクに登録、審議会へも
 - ・女性議会のとりくみ
 - ・女性議員がないのは大変な損失

所 感

密度の濃い 2 日間だった。初日は、発達障がいを中心とした子ども達の支援がテーマであった。本年 6 月議会の質問テーマ「ことばの教室と発達障がい」と重なり、深められた。発達障がいの早期発見が言われるが、そのことが保護者や関係者を追い込み、統合教育を難しくしていないか？ 3~4 歳から向精神薬が処方される現状が進んでいるという報告も衝撃的であった。多動で保護者が困っていても、幼児から薬で抑えることでの副作用を考えると、その実態と影響に関する調査と研究が必要ではないか。

身体、知的、情緒、色覚、聴覚、視覚、性的マイノリティ、人種や国籍、様々なグラデーションがある。どの子ども普通教室と一緒に学び遊び育つことができると、互いの違いを知り認め支えあう大人に育つだろう。現状では成長過程で分離されていたため、私を含めて多くの大人が障がいがある子どもや人との接し方やどのようにサポートしたらいいかわからない。共に生きる社会を築くには、当たり前にもろんな友達がいる統合教育が必要だ。そのためには、少人数学級で教員や支援員体制の充実が必要である。映画「みんなの学校」で見た大阪の大空小学校は夢ではない。夢をもって今回の研修を生かしていきたい。

2 日目は、「想像してみよう 女性 50%の政治がつくる社会を」のテーマに多角的に焦点を当てた。女性議員がないこと、少ないことは、「社会（地域）の損失！」、その通りと思う。人口の半分、しかも女だから悔しい思いをしたり多くが子育てや高齢家族や隣人たちのケアを担う女性たちの経験が、政治に活かされなければ、住みよくなならない。勉強会や会議に託児が必要、熊本地震の被災者はもちろん、職員にも女性の後ろにはケアが必要な子どもや高齢家族がいる、身動きは軽くはない。その負担をどうカバーしていくのが社会福祉、政治であろう。女性が 50%の政治がつくる社会は、男性も含めて誰もが生きやすい幸せな社会へ近づく。フェミニスト議員たちが全国にいる！勇気をもって進めていく力が得られた研修であった。一作者者 松崎百合子ー